

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870105644
法人名	社会福祉法人愛寿会
事業所名	グループホームあいじゅ
所在地	愛媛県松山市東方町甲814番地3
自己評価作成日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成21年 9月 8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

春には桜並木、夏には大輪のひまわりが咲き、そこには小鳥が餌を求めてやってきます。静かな環境の中で、朝はリズム体操、まつやまコソコソ体操と体を動かしたり歌った後は、自分の好きなコーヒー、紅茶等を楽しまれています。地域の人達とも交流を深めつつ、ご利用者様にも地域の一員として、安心して暮らしていけるように支援を行っています。一人一人の思いを大切に、少しでも出きる事が増え、笑顔の絶えない明るい、家庭的な雰囲気の中で、職員も生き生きと誇りを持って働ける職場作りに努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

前年度の調査結果を活かし、管理者と全職員が気持ちを一つにして、具体的な改善対策に取り組んでいる。運営推進会議での市や社協のアドバイスにより「支援マップ」を作成し、ケアの質の向上につなげている。会議で出された意見を活かして「くたにンビック」を開催し、近隣ホームとの連携につなげている。地域の方に編み物を週1回教えてもらうなど、利用者が楽しみながら地域との関わりを密にしている。利用者に意欲的に生活してもらうため、配膳や片付け等の協力をお願いしたり、周りの人を楽しませた時には、「お楽しみ券」を発行するなど、理念に基づくケアを実践している。
--

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します									
項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と		
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと		
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない		
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように		
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度		
			3. たまにある				3. たまに		
			4. ほとんどない				4. ほとんどない		
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている		
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない		
			4. ほとんどいない				4. 全くいない		
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が		
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが		
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない		
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が		
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが		
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない		
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が		
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが		
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない		
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が						
			2. 利用者の2/3くらいが						
			3. 利用者の1/3くらいが						
			4. ほとんどいない						

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目
(評価項目の構成)

Ⅰ.理念に基づく運営

Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

Ⅲ.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

Ⅳ.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム あいじゅ

(ユニット名) 愛

記入者(管理者)

氏 名 大栄 幸枝

評価完了日 21年 8月 24日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 職員で話し合って決めた理念を共有し、地域の人達との交流を大切にし、少しでも地域の事を知る為に推進会の時には、地域の人達にも参加して貰う事やスライド等で勉強会を開き、一人でも多くの人が地域に出かけて行けるよう支援を行っている。	
			(外部評価) 開設当初に掲げていた理念を、職員の交代をきっかけに全職員の思いを活かして再構築している。「利用者の尊厳を守る。地域で共に生きる。」を中心に作られ、実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域で開かれている、みらいクラブに参加したり、地区の文化祭、お祭り、保育所に訪問、近隣の神社、お寺、喫茶店等に出かけ、顔なじみになり、声をかけて頂けるよう努めている。最近は、向こうの方から先に声をかけて頂ける事もある。	
			(外部評価) 地域での公民館活動への参加や保育園児のお母さん方のグループ「みらいクラブ」との交流、近隣の喫茶店や弁当屋にも出かけるなど、地域とつながりのある暮らしを支援している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 地区のみらいクラブに参加し就学前の健常児、障害児と認知症の人達との交流、ゲーム等のお手伝いをしたり、料理教室に出かけ、出来る事はさせて頂く等、推進会議を通じ話し合っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 2ヶ月に一度開催している、近況報告や取り組みのテーマにそって話し合い、その後家族の要望や意見を聞いている。また、担当者からの意見は職員会時に話し合い共有することも実施している。	
			(外部評価) 運営推進会議には地域包括支援センター職員、民生委員、市役所職員、地域住民、保育園園長、市社協職員など外部の種々の参加者がおり、いろいろな意見やアドバイスが得られてサービス向上につなげている。保育園園長の協力を得て、近隣6か所のグループホームが集っての運動会（くたにンピック）を開催し、交流が図れた事例もある。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 推進会や事業所連絡会を活用したり、社会福祉協議会の方をお願いして支援マップの作り方を指導して頂いている。分からない事があれば相談し指導を受けている。	
			(外部評価) 運営推進会議に参加している市社会福祉協議会職員などの力を借りて、個人の支援マップを作成しケアプランにつなげている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束廃止マニュアルを作成し皆で取り組んでいる。玄関入り口について日中は開放しているが、出入り口になるところは、見守りが不十分な時のみ閉めている。玄関ホールにテーブルを置き、音楽を聴いたり、本を読んだりしてお茶を楽しんで頂いており、出入り口は開放している。	
			(外部評価) 職員が身体拘束について正しく理解していて、身体拘束のないケアが実践されている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 毎月1回職員会、カンファレンスの話し合いの時に虐待になっていないか等話し合っている。新職員もいるので、近日中に勉強会を開く予定である。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 包括支援センターの職員の方をお願いして年に1回勉強会を開催していたが、今年度はまだ開催できていない。入居者の中にも、成年後見制度を利用されている方もおられる。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入所時には重要事項説明を十分行っている。平成21年度4月の介護報酬改定に伴う重要説明事項の見直しの説明は家族会や面会時に行ったり、電話等で説明し書面を送付して対応している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 玄関ホール前に苦情受付箱を設置している。苦情が寄せられた場合には、マニュアルに沿って速やかに対応回答を行う。法人全体としても要望、苦情、解決委員会を開催し、頂いた要望、苦情が反映できるよう努めている。また、運営推進会議でご利用者、ご家族の意見や要望を聞くようにしている。 (外部評価) 家族会は年2回程度開催している。面会時や連絡時に家族が意見や要望を出しやすいよう、日頃から言いやすい雰囲気作りや密な情報交換を心がけている。苦情に対応する解決委員会の仕組みが出来ており、ホームの玄関に苦情受付箱を設置しているが、苦情は寄せられていない。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) ワーカー会等で職員の意見を聞き、必要があれば主任会等で、施設全体で話し合えるような仕組みになっている。 (外部評価) 月1回開催しているワーカー会議で、職員からの意見や提案を聞く機会を設けている。急ぐ場合は管理者に提案するなど、管理者と職員が自由に話し合える関係作りが出来ている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 人事考課制度に従い、評価を行っている。一人一人の個性や能力の把握に努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 法人内外の研修に参加する機会を確保し、スキルアップを図れるよう努めている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 推進会議を利用して、久谷地区のグループホームが参加し、みなみ保育園で「くたにンピック」と題し交流を行った。今年も、是非開催したいとの声が聞かれている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 見学の段階から本人とゆっくり話しができる時間をもち、本人の思いや不安を汲み取れるよう努めている。入居後も安心して暮らせるよう寄り添い、コミュニケーションを大切にしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) ご家族との連携を密にする事により、家族の思い、不安、要望を聞き出し、それにそって職員が尊厳を守りながら、いい関係が築けるよう努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 相談時に本人、ご家族様の希望を聞き、法人全体、他業種の方々の意見を聞き、様々なサービス選択肢を提供し、一緒に考えるよう努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) お料理、園芸、行事等について色々助言を頂いたり、一緒に行う事により、学ぶことも多く笑顔の絶えない暮らしが送れている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ご家族と一緒に行事に参加できるよう案内状を出したり、面会時にも伺うなど工夫に努めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 家族との繋がりを大切にしている。電話や通信等で交流が切れないよう支援している。外出時には、本人の馴染みの場所を訪ねたり、地域の人達に気軽に声をかけて頂けるよう支援している。 (外部評価) 日頃から面会や外泊をする方も多いが、電話や手紙などで家族との交流が切れないよう支援している。また個別支援マップを居室に貼り、家族に思いを書いてもらうなど、訪問される馴染みの人たちとも思いを共有できるよう努めている。支払は現金にすることで、利用者との面会の機会が多くなる工夫もしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士の会話にはそばで見守り、トラブルになりそうな場面では職員がなかに入り、話題を変えたりして対応している。孤立しないようにも配慮している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退所後、併設の業所を利用されている方には散歩を兼ね逢いに行き付き合いを大切にしている。日々の生活の中で思い出話に花が咲く時もある。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の暮らしの中で本人の意向が把握できない事もある。本人、家族、職員とで想いマップを作成して行くと、今まで見えなかったことが分ったりする事もある。困難な場合でも、本人本位の暮らしが送れるよう努めている。	
			(外部評価) 本人、家族、職員とで、日々の暮らしの中では把握できない思いを綴った「想いマップ」を作成し、思いを引き出せるように工夫している。それを個別支援マップとともに居室に掲示することで、本人、家族、職員が共有して把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人や家族面会時、職員との話の中で、情報を聞き申し送りノートや個人ケースに記録し共有している。利用者、ご家族との信頼関係を大切に何でも話し合えるように努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一人ひとり利用者に関わる中で、心身状態、精神状態を24シートに書き入れ職員会で情報を共有したり、話し合っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 利用者及び家族、職員で一人ひとりの想いマップを作成し、そこからプランにつなげている。月1回のカンファレンスでは全員で内容の状況や次の課題の話し合いを行っている。(想いマップは始めたばかりである。) (外部評価) 「想いマップ」を活用しケアプランに活かしている。月1回のカンファレンスで、それぞれの利用者に適したプランとなっているか全職員で検討し、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) センター方式の24時間シートを使って日々の様子や、精神状態を記録している。職員間で共有しながらケアプランの見直しにも月1回のカンファレンスのときに確認評価を行っている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 併設の事業所とも連携を取りながら意見交換を行っている。2ヶ月に1回推進会議の時に意見を伺ったりしている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 毎週月曜日ボランティアの編み物教室、みらいクラブ参加、近くのお寺、神社お参り、喫茶店(犬に逢いに行く)近隣の保育所との交流を行うことで、地域に出かける事が多くなり、安心して明るい暮らしが送れるよう支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 入所時かかりつけ医の希望を聞いて決めている。今 までのかかりつけ医を希望される方もおられ、その場 合基本的には家族対応になるが、どうしても対応でき ない場合は看護師が同行している。 (外部評価) 入居時に本人及び家族にかかりつけ医を確認し、希望 に添った受診ができるよう支援している。受診は、基 本として家族が付き添っているが、都合がつかない場 合は、ホームの看護師が通院介助している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) ホームの看護師及び法人内の他事業所の看護師と連 携を取りながら健康管理を行っている。(24時間体 制がとれている)	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院先の病院にこまめに面会に行ったり、看護師に ご様子や状態を聞き、家族や利用者の意向を聞きなが ら病院(担当医)にも確認している。面会に行く事 により利用者様が安心して入院生活が送れるよう努めて いる。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 入居時、面会時等に家族、本人の想いを聞くように している。こちらで最期を迎えたいと言われる方もお られ、かかりつけ医、看護師、介護職、ご本人、ご家 族等で話し合い、支援に取り組んでいる。看取りに関 する指針をご家族に説明し、同意を頂いている。 (外部評価) 入居時に、重度化や看取りに関する指針を説明し、希 望を確認しているが、現在のところ看取りの実施経験 はない。重度化した場合には、家族と話し合って方針 を決定している。	まだ設立3年のホームであるが、入居期間が長くなると 利用者の身体状況が低下する場合もあるので、今後、 看取りについての研鑽を深め、希望があった場合に適 切な対応ができるよう取り組むことに期待したい。

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 毎年緊急時の処置の仕方を法人内で消防署の指導を受けている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回併設の事業所と一緒にやっている。ホームでは毎月1回避難経路や手順の確認を行っている。地震に備えて防災頭巾を作成、それを使って避難訓練も行っている。今年度中に、スプリンクラーを設置する計画である。 (外部評価) 併設の事業所と一緒に災害訓練を年2回行っている。ホーム独自で毎月1回、避難経路や手順の確認も行っている。運営推進会議で提案された非常食の炊き出し訓練をしたり、タオルで防災頭巾を作り、訓練で実際に試してみるなど積極的に取り組んでいる。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 事業所理念にも掲げ一人一人の尊厳を守り、ゆつくりと温かい声かけに心がけている。居室に入る際はノックを行い本人の理解を取って訪室するようにしている。個人情報やワーカー室扱いにしている。廃棄する際には、シュレッダーにかけて注意をはらっている。 (外部評価) 一人ひとりの人格を尊重した支援が出来ている。日々意欲を持って暮らしていただけるよう、周囲の方を楽しませたら「お楽しみ券」を発行するなど工夫して、押しつけでなく自ら楽しんで生活できるよう支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日常生活の中で出来るだけ本人の気持ちを大切にしている。声かけにも決めつけるような言葉かけはせず、あくまで本人が納得して決めて頂くようにしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一ヶ月の行事は法人内の車の調整が必要なので、おまかに決まっている散歩や近くのスーパーマーケットのお買い物は本人の希望を聞き、少しでも気分転換が図れるよう支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 移動美容室（月2回）を利用される方、なじみの所へ家族と行かれたりしている。外出時の服装は本人のお気に入りを選んだり、職員と一緒に選ばれたりされ薄化粧をして楽しくお出かけされる。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 料理の盛り付け、片付け等一緒に行っている。畑やプランタンで出来た野菜、頂いた野菜と一緒に料理して季節感を味わって頂いている。気分転換を兼ね外食にも出かけ楽しんでいる。 (外部評価) 併設の系列事業所から、食事が届く仕組みになっており、空いた時間を利用者との関わりを深める時間として活かしている。利用者と職員が、届けられた料理の盛り付けや巻きずしを巻いたり、カレーを作ったり、公民館の料理教室で学んだおやつをホームでも作るなど、楽しむことを支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) ケアチェック表で個々の食事量、水分量を把握している。食事量が減ってきている方は食事形態を改善したり、主治医、家族と相談しながら対応している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 起床時と毎食後の口腔ケアを行い、声かけ介助している。就寝時には入歯の洗浄を行なっている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 誘導の必要な方にはチェックしながら排泄リズムを把握し声かけを行っている。気持ちのいい排泄がトイレで行えるよう支援を行っている。 (外部評価) 職員は、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握しており、自立した排泄ができるようさりげない支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) ケアチェック表で排泄を確認している。便秘の方には水分摂取、ヨーグルト、散歩、運動等を取り入れたり主治医に相談しながら下剤でコントロールを行っている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 健康状態に異常がない方は、いつでも入浴出来る様にしている。一人浴槽で職員が必ず見守り介助を行っている。(この時間は色々お話がマンツウマンで出来楽しい時間となっている)今のところ夜間入浴希望者がいないので行なっていないが、希望があれば出来る体制になっている。 (外部評価) 介助が必要な方、見守りで対応できる方、入浴時間等、それぞれの利用者の身体状況や希望を把握し、個々に合わせた支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 夜間は殆どの方が良眠されている。眠れなかった日等は日中居室で休息して頂くよう声かけしたり、本人に合わせて対応している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬についての勉強会に参加し、誤薬、服薬忘れをしないよう気をつけている。服薬時には職員同士確認した後、本人確認して頂き誤薬の無いように慎重に行っており、薬の変更時は、申し送りノートを利用し周知徹底している。薬の保管は、ワーカー室の鍵をかけた棚で、看護師が管理責任を行っている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 個別に想いマップを作成し（本人、家族、職員参加）そこから個別の支援につなげている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 歩行練習を兼ね法人内他事業所のボケ封じ観音様までお参りに行ったり、少ない人数での茶房央でお茶（子犬のミーちゃんに逢い）に行ったり、出来るだけ日々の会話の中で、希望を聞き出しドライブや外食等を計画し実施している。 (外部評価) 日常の関わりの中で、利用者の希望に添った外出を支援している。近隣の民家のお茶に招待されたり、喫茶店に行ったりしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) お財布が無くなった、誰かが取ったと訴えられる方もあり、家族会で話し合い職員が預かる場合もある。自分で支払いの出来る人には、可能な限りご自分でお支払いされるよう見守りを行っている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 書類を送る時に、ご本人様からのお手紙を入れたり、年賀状が出せるようお手伝いしている。電話は本人より希望があるときは支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 入居者が集まるリビングにはソファを用意し、テレビを観たりお話ができるようにしている。玄関ホール、食堂にはお花、ちぎり絵等で、季節感を取り入れている。西側の居室の窓側は「よしず」で日よけを行っている。 (外部評価) 玄関、居間、廊下などの調度品も落ち着いた雰囲気がある。飾りも季節感にあふれ、上品で気持ちの良い共用空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) リビングのソファもそれぞれ自分の安心する居場所があり、テレビを観たり、利用者同士お話されたり、家族、職員との会話の居場所にもなっている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 今まで使っていたベッドや布団、椅子等を持ち込んで頂き、家庭的な雰囲気作りを心がけている。家族の写真や趣味の物を飾る事で少しでも心地よく過して頂けるように努めている。 (外部評価) 居室はそれぞれの利用者に適した設えとなっており、本人が落ち着いて居心地良く過ごせるよう、使い慣れたベッドや好みの調度品なども配慮されている。仏壇のお花やお供えなどを共にするなど、職員が生活を見守っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 利用者のできる事を行って頂き、「やる気」を起こさせるような声かけを行ったり、「トイレにはノックをしてから開けるように」と書いて貼ったり安全面に気を付け少しでも自立した生活が送れるよう工夫している。また、やる気を起こすために、お楽しみ券を発行している。	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870105644
法人名	社会福祉法人愛寿会
事業所名	グループホームあいじゅ
所在地	愛媛県松山市東方町甲814番地3
自己評価作成日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 **※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載**

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成21年 9月 8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

春には桜並木、夏には大輪のひまわりが咲き、そこには小鳥が餌を求めてやってきます。静かな環境の中で、朝はリズム体操、まつやまコソコソ体操と体を動かしたり歌った後は、自分の好きなコーヒー、紅茶等を楽しんでいます。地域の人達とも交流を深めつつ、ご利用者様にも地域の一員として、安心して暮らしていけるように支援を行っています。一人一人の思いを大切に、少しでも出きる事が増え、笑顔の絶えない明るい、家庭的な雰囲気の中で、職員も生き生きと誇りを持って働ける職場作りに努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

前年度の調査結果を活かし、管理者と全職員が気持ちを一つにして、具体的な改善対策に取り組んでいる。運営推進会議での市や社協のアドバイスにより「支援マップ」を作成し、ケアの質の向上につなげている。会議で出された意見を活かして「くたにンビック」を開催し、近隣ホームとの連携につなげている。地域の方に編み物を週1回教えてもらうなど、利用者が楽しみながら地域との関わりを密にしている。利用者に意欲的に生活してもらうため、配膳や片付け等の協力をお願いしたり、周りの人を楽しませた時には、「お楽しみ券」を発行するなど、理念に基づくケアを実践している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目
(評価項目の構成)

Ⅰ.理念に基づく運営

Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

Ⅲ.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

Ⅳ.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名

グループホーム あいじゅ

(ユニット名)

寿

記入者(管理者)

氏 名

根来 聖子

評価完了日

21年 8月 24日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 職員で話し合っ決めた理念を共有し、地域の人達との交流を大切にし、少しでも地域の事を知る為に推進会の時には、地域の人達にも参加して貰う事やスライド等で勉強会を開き、一人でも多くの人が地域に出かけて行けるよう支援を行っている。	
			(外部評価) 開設当初に掲げていた理念を、職員の交代をきっかけに全職員の思いを活かして再構築している。「利用者の尊厳を守る。地域で共に生きる。」を中心に作られ、実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域で開かれている、みらいクラブに参加したり、地区の文化祭、お祭り、保育所に訪問、近隣の神社、お寺、喫茶店等に出かけ、顔なじみになり、声をかけて頂けるよう努めている。最近は、向こうの方から先に声をかけて頂ける事もある。	
			(外部評価) 地域での公民館活動への参加や保育園児のお母さん方のグループ「みらいクラブ」との交流、近隣の喫茶店や弁当屋にも出かけるなど、地域とつながりのある暮らしを支援している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 地区のみらいクラブに参加し就学前の健常児、障害児と認知症の人達との交流、ゲーム等のお手伝いをしたり、料理教室に出かけ、出来る事はさせて頂く等、推進会議を通じ話し合っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 2ヶ月に一度開催している、近況報告や取り組みのテーマにそって話し合い、その後家族の要望や意見を聞いている。また、担当者からの意見は職員会時に話し合い共有することも実施している。	
			(外部評価) 運営推進会議には地域包括支援センター職員、民生委員、市役所職員、地域住民、保育園園長、市社協職員など外部の種々の参加者がおり、いろいろな意見やアドバイスが得られてサービス向上につなげている。保育園園長の協力を得て、近隣6か所のグループホームが集っての運動会（くたにンピック）を開催し、交流が図れた事例もある。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 推進会や事業所連絡会を活用したり、社会福祉協議会の方をお願いして支援マップの作り方を指導して頂いている。分からない事があれば相談し指導を受けている。	
			(外部評価) 運営推進会議に参加している市社会福祉協議会職員などの力を借りて、個人の支援マップを作成しケアプランにつなげている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束廃止マニュアルを作成し皆で取り組んでいる。玄関入り口について日中は開放しているが、出入り口になるところは、見守りが不十分な時のみ閉めている。玄関ホールにテーブルを置き、音楽を聴いたり、本を読んだりしてお茶を楽しんで頂いており、出入り口は開放している。	
			(外部評価) 職員が身体拘束について正しく理解していて、身体拘束のないケアが実践されている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 毎月1回職員会、カンファレンスの話し合いの時に虐待になっていないか等話し合っている。新職員もいるので、近日中に勉強会を開く予定である。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 包括支援センターの職員の方をお願いして年に1回勉強会を開催していたが、今年度はまだ開催できていない。入居者の中にも、成年後見制度を利用されている方もおられる。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入所時には重要事項説明を十分行っている。平成21年度4月の介護報酬改定に伴う重要説明事項の見直しの説明は家族会や面会時に行ったり、電話等で説明し書面を送付して対応している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 玄関ホール前に苦情受付箱を設置している。苦情が寄せられた場合には、マニュアルに沿って速やかに対応回答を行う。法人全体としても要望、苦情、解決委員会を開催し、頂いた要望、苦情が反映できるよう努めている。また、運営推進会議でご利用者、ご家族の意見や要望を聞くようにしている。 (外部評価) 家族会は年2回程度開催している。面会時や連絡時に家族が意見や要望を出しやすいよう、日頃から言いやすい雰囲気作りや密な情報交換を心がけている。苦情に対応する解決委員会の仕組みが出来ており、ホームの玄関に苦情受付箱を設置しているが、苦情は寄せられていない。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) ワーカー会等で職員の意見を聞き、必要があれば主任会等で、施設全体で話し合えるような仕組みになっている。 (外部評価) 月1回開催しているワーカー会議で、職員からの意見や提案を聞く機会を設けている。急ぐ場合は管理者に提案するなど、管理者と職員が自由に話し合える関係作りが出来ている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 人事考課制度に従い、評価を行っている。一人一人の個性や能力の把握に努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 法人内外の研修に参加する機会を確保し、スキルアップを図れるよう努めている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 推進会議を利用して、久谷地区のグループホームが参加し、みなみ保育園で「くたにンピック」と題し交流を行った。今年も、是非開催したいとの声が聞かれている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 見学の段階から本人とゆっくり話しができる時間を持ち、本人の思いや不安を汲み取れるよう努めている。入居後も安心して暮らせるよう寄り添い、コミュニケーションを大切にしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) ご家族との連携を密にする事により、家族の思い、不安、要望を聞き出し、それにそって職員が尊厳を守りながら、いい関係が築けるよう努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 相談時に本人、ご家族様の希望を聞き、法人全体、他業種の方々の意見を聞き、様々なサービス選択肢を提供し、一緒に考えるよう努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) お料理、園芸、行事等について色々助言を頂いたり、一緒に行う事により、学ぶことも多く笑顔の絶えない暮らしが送れている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ご家族と一緒に行事に参加できるよう案内状を出したり、面会時もお誘いをしている。また、ご家族様からミニコンサートや紙芝居を毎月の行事として行って下さる程、一緒に盛り立て支援できる良い関係が築けている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 行きつけの美容室を利用されたり、ご友人から定期的に遊びに来られ、良い友人関係が保たれるように職員も一緒に信頼関係を築いている。また、馴染みの場所への外出は、より積極的に個別支援ができるように努めている。 (外部評価) 日頃から面会や外泊をする方も多いが、電話や手紙などで家族との交流が切れないよう支援している。また個別支援マップを居室に貼り、家族に思いを書いてもらうなど、訪問される馴染みの人たちとも思いを共有できるよう努めている。支払は現金にすることで、利用者との面会の機会が多くなる工夫もしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士の会話には傍で見守り、トラブルになりそうな場面では職員が中に入り、話題を変えたりして対応している。孤立しないよう、一緒に出来ることを提供し、寄り添いながら支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退居後、併設の事業所を利用されている方には散歩を兼ね逢いに行き付き合いを大切にしている。日々の生活の中で思い出話に花が咲く時もある。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の暮らしの中で本人の意向が把握できない事もある。本人、家族、職員とで想いマップを作成して行くと、今まで見えなかったことが分ったりする事もある。困難な場合でも、本人本位の暮らしが送れるよう努めている。	
			(外部評価) 本人、家族、職員とで、日々の暮らしの中では把握できない思いを綴った「想いマップ」を作成し、思いを引き出せるように工夫している。それを個別支援マップとともに居室に掲示することで、本人、家族、職員が共有して把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) ご本人やご家族の面会時等に、聞き得た情報は申し送りノートや個人ケースに記録し、共有している。ご利用者、ご家族との信頼関係を大切に何でも話し合えるように努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一人ひとり利用者に関わる中で、心身状態、精神状態をセンター方式の24時間シートに書き入れ、職員で情報を共有したり、話し合っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 利用者及び家族、職員で一人ひとりの想いマップを作成し、そこからプランにつなげている。月1回のカンファレンスでは全員で内容の状況や次の課題の話し合いを行っている。(想いマップは始めたばかりである。) (外部評価) 「想いマップ」を活用しケアプランに活かしている。月1回のカンファレンスで、それぞれの利用者に適したプランとなっているか全職員で検討し、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) センター方式の24時間シートを使って日々の様子や、精神状態を記録している。職員間で共有しながらケアプランの見直しにも月1回のカンファレンスで確認評価を行っている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 併設の事業所とも連携を取りながら、意見交換を行っている。2ヶ月に1回推進会議の時に意見を伺ったりしている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 毎週月曜日はボランティアの編み物教室、地域行事のみらいクラブ参加、近くのお寺、神社のお参り、喫茶店(犬に逢いに行く)近隣の保育所との交流を行うことで、地域に出かける事が多くなり、安心で明るい暮らしが送れるよう支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 入居時に、かかりつけ医の希望を聞いて決めている。今までのかかりつけ医を希望される方もおられ、その場合基本的には家族対応になるが、どうしても対応できない場合は看護師が同行している。 (外部評価) 入居時に本人及び家族にかかりつけ医を確認し、希望に添った受診ができるよう支援している。受診は、基本として家族が付き添っているが、都合がつかない場合は、ホームの看護師が通院介助している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) ホームの看護師及び併設施設の看護師と連携を取りながら健康管理を行っている。(24時間体制がとれている)	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院先の病院にこまめに面会に行ったり、看護師にご様子や状態を聞き、家族や利用者の意向を聞きながら病院(担当医)にも確認している。面会に行く事により利用者様が安心して入院生活が送れるよう努めている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 入居時、面会時等に家族、本人の想いを聞くようにしている。こちらで最期を迎えたいと言われる方もおられ、かかりつけ医、看護師、介護職、ご本人、ご家族等と話し合い支援に取り組んでいる。看取りに関する指針をご家族に説明し、同意を頂いている。 (外部評価) 入居時に、重度化や看取りに関する指針を説明し、希望を確認しているが、現在のところ看取りの実施経験はない。重度化した場合には、家族と話し合って方針を決定している。	まだ設立3年のホームであるが、入居期間が長くなると利用者の身体状況が低下する場合もあるので、今後、看取りについての研鑽を深め、希望があった場合に適切な対応ができるよう取り組むことに期待したい。

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 毎年緊急時の処置の仕方を法人内で消防署の指導を受けている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回法人内他事業所と一緒にやっている。ホームでは毎月1回避難経路や手順の確認を行っている。地震に備えて防災頭巾を作成、それを使って避難訓練も行っている。今年度中に、スプリンクラーを設置する計画である。 (外部評価) 併設の事業所と一緒に災害訓練を年2回行っている。ホーム独自で毎月1回、避難経路や手順の確認も行っている。運営推進会議で提案された非常食の炊き出し訓練をしたり、タオルで防災頭巾を作り、訓練で実際に使ってみるなど積極的に取り組んでいる。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 事業所理念にも掲げ一人一人の尊厳を守り、ゆっくりと温かい声かけに心がけている。居室に入る際はノックを行い本人の理解を取って訪室するようにしている。個人情報やワーカー室扱いにしている。廃棄する際には、シュレッダーにかけて注意をはらっている。 (外部評価) 一人ひとりの人格を尊重した支援が出来ている。日々意欲を持って暮らしていただけるよう、周囲の方を楽しませたら「お楽しみ券」を発行するなど工夫して、押しつけでなく自ら楽しんで生活できるよう支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日常生活の中で出来るだけ本人の気持ちを大切にしている。声かけにも決めつけるような言葉遣いはせず、あくまで本人が納得して決めて頂くようにしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一ヶ月の行事は法人内の車の調整が必要なので、おおまかに決まっている散歩や近くのスーパーマーケットのお買い物は本人の希望を聞き、少しでも気分転換が図れるよう支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 移動美容室（月2回）を利用される方、なじみの所へ家族と行かれたりしている。外出時の服装は本人のお気に入りを選んだり、職員と一緒に選ばれたりされ薄化粧をして楽しくお出かけされる。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 料理の盛り付け、片付け等一緒に行っている。畑やプランタンで出来た野菜、頂いた野菜と一緒に料理して季節感を味わって頂いている。気分転換を兼ね外食にも出かけ楽しんでいる。 (外部評価) 併設の系列事業所から、食事が届く仕組みになっており、空いた時間を利用者との関わりを深める時間として活かしている。利用者と職員が、届けられた料理の盛り付けや巻きずしを巻いたり、カレーを作ったり、公民館の料理教室で学んだおやつをホームでも作るなど、楽しむことを支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) ケアチェック表で個々の食事量、水分量を把握している。食事量が減ってきている方は食事形態を改善したり、主治医、家族と相談しながら対応している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 起床時と毎食後の口腔ケアを行い、声かけ介助している。就寝時には入歯の洗浄を行なっている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 誘導の必要な方にはチェックしながら排泄リズムを把握し声かけを行っている。気持ちの良い排泄がトイレで行えるよう支援を行っている。 (外部評価) 職員は、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握しており、自立した排泄ができるようさりげない支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) ケアチェック表で排便を確認している。便秘の方には水分摂取、ヨーグルト、散歩、運動等を取り入れたり、主治医に相談しながら下剤でもコントロールを行っている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 健康状態に異常がない方は、いつでも入浴出来る様にしている。一人浴槽で職員が必ず見守り介助を行っている。(この時間は色々お話がマンツウマンで出来楽しい時間となっている)今のところ夜間入浴希望者がいないので行なっていないが、希望があれば出来る体制になっている。 (外部評価) 介助が必要な方、見守りで対応できる方、入浴時間等、それぞれの利用者の身体状況や希望を把握し、個々に合わせた支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 夜間は殆どの方が良眠されている。眠れなかった日等は、日中居室で休息して頂くよう声かけしたり、本人に合わせて対応している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬についての勉強会に参加し、誤薬、服薬忘れをしないよう気をつけている。服薬時には職員同士確認した後、本人確認して頂き誤薬の無いように慎重に行っており、薬の変更時は、申し送りノートを利用し周知徹底している。薬の保管は、ワーカー室の鍵をかけた棚で、看護師が管理責任を行っている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 個別に想いマップを作成し（本人、家族、職員参加）そこから個別の支援につなげている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 歩行運動を兼ね、併設施設にあるボケ封じ観音様まで、お参りに行ったり、少ない人数での茶房央でお茶（子犬のミーちゃんに逢い）に行ったり、出来るだけ日々の会話の中で、希望を聞き出しドライブや外食等を計画し実施している。 (外部評価) 日常の関わりの中で、利用者の希望に添った外出を支援している。近隣の民家のお茶に招待されたり、喫茶店に行ったりしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) お財布が無くなった、誰かが取ったと訴えられる方もあり、家族会で話し合い職員が預かる場合もある。自分で支払いの出来る人には、可能な限りご自分でお支払いされるよう見守りを行っている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 書類を送る時に、ご本人様からのお手紙を入れたり、年賀状が出せるようお手伝いしている。電話は本人より希望があるときは支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 入居者が集まるリビングにはソファを用意し、テレビを観たりお話ができるようにしている。玄関ホール、食堂にはお花、ちぎり絵等で、季節感を取り入れている。西側の居室の窓側は「よしず」で日よけを行っている。 (外部評価) 玄関、居間、廊下などの調度品も落ち着いた雰囲気がある。飾りも季節感にあふれ、上品で気持ちの良い共用空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) リビングのソファもそれぞれ自分の安心する居場所があり、テレビを観たり、利用者同士お話されたり、家族、職員との会話の居場所にもなっている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 今まで使っていたベッドや布団、椅子等を持ち込んで頂き、家庭的な雰囲気作りを心がけている。家族の写真や趣味の物を飾る事で少しでも心地よく過して頂けるように努めている。 (外部評価) 居室はそれぞれの利用者に適した設えとなっており、本人が落ち着いて居心地良く過ごせるよう、使い慣れたベッドや好みの調度品なども配慮されている。仏壇のお花やお供えなどを共にするなど、職員が生活を見守っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 利用者のできる事を行って頂き、「やる気」を起こさせるような声かけを行ったり、「トイレにはノックをしてから開けるように」と書いて貼ったり安全面に気を付け少しでも自立した生活が送れるよう工夫している。また、やる気を起こすために、お楽しみ券を発行している。	